

KSK

川崎市障害者社会参加
推進センター通信編集人 川崎市障害者社会参加推進センター
所長 中込 義昌
編集責任者 広報・啓発委員会
委員長 澤藤 充教
〒210-0834 川崎市大島1-8-6
川崎市南部身体障害者福祉会館内
電話 044-246-6941
FAX 044-246-6943
E-mail zksk@nifty.com
http://kawashinkyu.org

しあわせを呼ぶコンサート

今年は記録的な暑さの中で、高齢者や障害者にとって苦難の夏を体験された方も多かったと思います。初秋に入り残暑の厳しい9月6日宮前区主催の「響け歌声！「第14回しあわせを呼ぶコンサート」」が、宮前市民館に於いて開催されました。区内にある13ヶ所の障害者作業所で働く人たち（知的・精神・身体）が、宮前市民館大ホールのステージから、満席となった場内に響くように皆さん元気に楽しさと喜びを全身で表わしながら、日頃の歌の練習成果を一生懸命に披露されました。

今年で第14回目を迎えたコンサート。最初は市民の方たちとの交流の中で、障害者への理解と働ける喜びを知って貰う為にスタートした小さなコンサートでしたが、回を重ねる毎に市民の方々の理解と支援の輪が広がり、各作業所の協力もあって、今では大きく育ったステージとなりました。

皆さんの愛の支援が結集したステージは、毎年多くの市民を感動させてくれました。主催は宮前区ですが、支援する団体のみなさんの熱い思いと優しさが、障害者の夢を叶らせたステージだと思います。

各作業所のスタッフの努力と所員の熱意が、多くの支援に繋がり今回も素晴らしいゲストさん達の応援出演を賜りました。特定非営利活動法人レジーナ・チャーリ芸術振興会。毎回、出演を戴く「しあわせフィルハーモニー」を指揮する久保田悠太香（くぼたゆたか）さん



はヨーロッパ各国で活躍をされた経歴を持つ方で、楽士のみなさんも諸外国で活躍されている方ばかりの豪華メンバーです。今回は、声楽家のソプラノ：馬原裕子（まはらひろこ）さん、アルト：佐藤寛子（さとうひろこ）さん、テノール：渡辺大（わたなべだい）さん、バス：鐘皓（ジョンハオ）さんがゲスト出演され、コンサートを華やかに盛り上げて下さいました。

賛助出演の各コーラス隊も地域で活躍されている「混声合唱団南生田コーラス」「高津市民合唱団」「高津メンネルコール」「女声コーラス・ドルチェ」「女声コーラス・ヴィオレッテ」と多彩なメンバーでした。

宮前区鷺沼に在住の声楽家、斎藤新（さいとうしん）さんが、各作業所を廻って障害者の歌の指導をして下さいました。斎藤先生は合唱指導の他にも、音楽健康法の分野でも活躍されています。

今回は、初めて石澤桂治宮前区長さんも参加されて、障害者の仲間に入り熱唱されました。区長さんは、「早朝出勤、居残り等を利用

して、独り役所内で猛練習した」と話しておりました。

コンサートの圧巻は、有名なベートーヴェン交響曲第 9 番第 4 楽章「歓喜の歌」の抜粋を障害者とコーラス隊全員が原語で謳って聴衆を感動させました。第 2 部のゲストステージは、中国の有名な二胡の演奏と揚琴と云う楽器で 2 名の女性の方が、みなさんが良く知っている曲を演奏してくれました。

続いて「しあわせフィルハーモニー」のメンバーでの素晴らしい演奏があって楽しいひとときを過ごしました。最後に各作業所で作った特製のクッキーやブルーベリージャム、また手作りの小物製品を、おみやげとして、ゲスト出演者の方々と指揮者の久保田悠太香さん、コンサートマスターの木野雅之さんに各作業所の代表所員から直接、手渡し握手を交わして感謝の意を表しました。

満席の場内からは大きな拍手が湧きあがって、第 14 回目のコンサートを終了しました。終了後には、市民館ロビーで各作業所の製品の即売会があり、毎年来て下さる顔馴染みのお客さんや、多くの市民の方々が求めて下さり、出店の品物も完売となり、市民との交流がまた深まった秋の一日でした。

(宮前区身体障害者協会 石山 春平)



※揚琴(ようきん)

打弦楽器の一種。梨の木から作った台形の木に、144 本の弦を張ったもので、これを 2 本の竹のバチで叩くことによって音が出ます。



*二胡 (にこ)
擦弦楽器の一種。
2 本の弦をヴァイオリンと同様に弓で擦ることにより音を奏でます。

《プログラム》

【第 1 部】 ～ 合唱 ～

出演 いぬくら/旬彩厨房じんべい/しらはた
/セルプ宮前こぼと/トゥーランプラン
宮前/長尾けやきの里/陽だまり/みずき
/宮前ハンズ/宮前ふれあいの家/宮前ブ
ロッサム/れいんぼう川崎
総勢約 120 人

曲目 (1) 花は咲く
(2) 会いたかった
(3) ベートーヴェン交響曲第 9 番
第 4 楽章「歓喜の歌」より抜粋

独唱 ソプラノ:馬原裕子
アルト :佐藤寛子
テノール:渡辺大
バス :鐘皓

演奏 しあわせフィルハーモニー

指揮 久保田悠太香

コンサートマスター 木野雅之

【第 2 部】 ～ 中国 悠久の調べ ～

出演 揚琴:郭敏 (グオ ミン)
二胡:章佳紅 (ザン ジャホン)
歌 :唐亜明 (タン ヤミン)

演目 天路 (テェンル 空の道) /
我的祖国 (ワトゥチュコク 私の祖国)
地上の星 他

あやめ会学習会に参加して

7 月 6 日 (土) 午後 3 時から、川崎市精神保健センター担当課長 明田(あけた)久美子氏より「社会資源を上手に活用しましょう～ご家族へのメッセージ～」と題してお話をお聞きすることが出来ました。用意くださった資料が足りなくて刷り増しするほどで、部屋一杯 50 名近い方が参集されました。年々障害を持つ人が増え、今は「誰でもかかる可能性がある身近な疾病」となっていること、精神疾患を持つ人の状況 (医療機関にかかっている患者数、疾病別内訳)、川崎市に於ける精神障害者数で、自立支援医療 (通院) を利用する人に対して手帳所持者はその半数ほど、総合支援法上の障害福祉サービスを利用する人は又その五分の一との数表示がありました。

社会復帰に利用できる資源としてどのようなものがあるか。

・住まいに関する所

グループホーム、宿泊型自立訓練施設 (井田桜の風)、住宅入居等支援事業 (川崎市居住支援制度)。

单身生活をしている方も沢山おられるそうです。

・生活に関すること

居宅介護 (ホームヘルプサービス)、短期入所 (ショートステイ)、移動支援、川崎市あんしんセンター (日常生活自立支援事業: 金銭管理が出来なくての利用が多い)。

・日中の過ごし方

地域活動支援センター、デイケア (病院、クリニック、保健福祉センター等)、「障害者を」対象とする場だけでなく、「障害者も」過ごせる場への参加。

・就労支援

就労移行支援 (事業所がどんどん増えている。民間会社組織の参入、質にはバラツキがある。)

就労継続支援

就労支援センター (社会参加支援センター)

障害者就労援助センター (南/中/北)

・相談窓口

医療機関 (精神神経科、心療内科)

各区保健福祉センター (障害者支援係)

障害者相談支援センター (基幹/地域)

精神保健福祉センター

こころの電話相談 044-246-6742

百合丘障害者センター (多摩・麻生区の方)

044-281-6621

精神科救急医療情報窓口 045-821-7070

「本年 4 月からの相談支援センター (基幹/地域) について、人への援助の姿勢は障害によって変わるものではない。得手不得手をなくすため 6 月末に実務研修を行い相談支援の一人ひとりにケアマネージャーが付くように頑張っています。家族会の協力もお願いしたい」とのお話でした。(人材育成に時間を要する)

今日これまでに学んだことを復習しながら (再発と回復の関係: 薬の効果、影響だけで



はないこと。批判的な気持ちと心配しすぎる気持ちが強すぎて、再発率が高くなる。いいところ探しをすることで、本来ある本人の持ついいところや頑張っているところが見えるようになり、本人とのやり取りも変わりお互いが前向きになってゆくなど)、自身を振り返ることができました。退院してから 6 年再発しないですんでいます。以前の仕事に就きたいとの気持ちを持っているようです。日々の生活を見直し、相談支援 (訪問) を受けて、未利用の資源・制度を活用して、本人家族が前向きに過ごしてゆくことができたと思います。

(さちの会 青木 光子)

第 47 回 手をつなぐ育成会関東甲信越大会報告



(写真：大会の様子)

第 47 回手をつなぐ育成会関東甲信越大会が 9 月 28 日 (土)、29 日 (日)、茨城県つくば国際会議場で開催されました。

川崎市育成会手をむすぶ親の会からは本人部会参加者を含め延べ 14 名が参加しました。

今回の大会は、「共に生きる社会をめざして」を主題に、知的障害者の権利保障と福祉充実を図るため、次のスローガンで行われました。

- ・ 障害者権利条約の批准を実現させよう！
- ・ 本人の権利擁護と意思の尊重を確立させよう！
- ・ 地域での共生社会を実現させよう！
- ・ 育成会活動の活性化を進めよう！

1 日目は、「幼児期・児童期 (地域で共に安心して育つ)」、「生活 (共生社会の実現に向けて)」、「就労 (多様な働き方、働く場を作る)」、「権利擁護 (成年後見制度)」、「育成会活動 (これからの育成会活動)」、「本人」の分科会に分かれて参加、それぞれが活発に行われました。

2 日目は全体会。式典では、主催者挨拶、茨城県知事、茨城県議会議長、国会議員からの祝辞、地元つくば市からの歓迎の挨拶、大会宣言の採択などが行われました。

引き続き、中央情勢報告があり、その後、元 JAXA 宇宙飛行士・土井隆雄氏による「夢の実現：宇宙をめざせ」と題する記念講演が行われました。

「中学校の時に宇宙への夢を描いた。それから 1997 年スペースシャトル・コロンビア号に乗り、16 日間、宇宙で滞在した。宇宙に憧れを抱いてから 30 年経過していた。2 回目は 2008 年スペースシャトル・エンデバー号に乗り、宇宙ステーションに日本の『きぼう』モジュールを取り付けに行った。」

映像を交え、淡々とした口調の中にも熱い思いが感じられました。

最後に、「自分が一番頑張れるのは、自分の好きな事をする事。それが夢を追うこと。」と結ばれ大きな感銘、勇気を与えてくれました。



(写真：記念講演の様子)

地福協から育成会へと変わり、役員体制も変わりました。さまざまな諸団体、行政等の連携・尽力で「川崎市育成会手をむすぶ親の会」も船出をしました。夢をもって、頑張れば必ず、明るい明日が見えることを痛感しました。

川崎市育成会手をむすぶ親の会
副会長 宮澤 明

(育成会かわさき No171号掲載より)

(公財)川崎市身体障害者協会 構成団体紹介

◎川崎市中途失聴・難聴者協会（川難聴）

当協会は、正式名称を「川崎市中途失聴・難聴者協会」と言いますが、略称は「川難聴」と呼んでいます。

平成3年10月に協会を創設。会員は正会員、準会員、賛助会員など含め、約100名。

日頃は、聴覚障害者の自立と社会参加の促進を支援し、福祉向上のために、さまざまな活動に取り組んでいます。

川崎市内で身体障害者手帳をもつ聴覚障害者は3,320人（H24年3月）ですが、一口に難聴者と言っても軽度の難聴から重度の難聴まで、なかり広い範囲で難聴者が存在することになり、全国で難聴者は600万人以上いるといわれています。特に最近では、年々高齢化社会が進み、今では高齢の難聴者が増加しているのが実状です。

川崎市中途失聴・難聴者協会の上部団体には、「全日本難聴者・中途失聴者団体連合会」という全体をまとめる組織があり、国や行政に対してさまざまな要望や事業内容の改善などを提案したり、全国要約筆記問題研究会（全要研）と連携して難聴者の福祉向上に努めています。

また、連合会の傘下には、全国8つのブロックによる連絡協議会があり、難聴者同志との交流や親睦を深めております。当会は関東ブロックに属します。



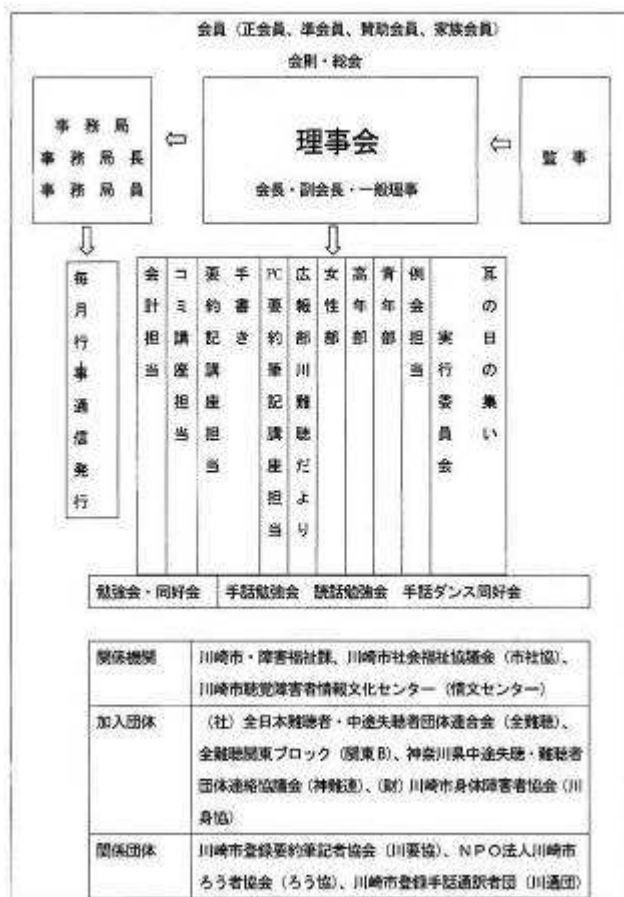
（写真：H25年全難聴福祉大会 in 埼玉）

中途失聴・難聴者の場合は、文字通り人生の途中で突然聞こえなくなった方や、難聴に

なってだんだん聞こえがわるくなった人達であり、高齢になってから手話の習得などがなかなか大変です。

その為、当協会の活動の中では、日頃から補聴器や人工内耳を装用し、毎月の例会や手話勉強会・読話勉強会・手話ダンス同好会などに会員が参加しています。各自の聞こえの程度により、手話を学びながら、読話や筆談など、いろいろな方法によって、意思疎通を図れるようトータルコミュニケーションを取り入れ、難聴者の障害受容には積極的に取り組み、会員同士の交流を深めています。

川崎市中途失聴・難聴者協会（川難聴）の組織と活動



例会は、毎月第3日曜日、季節に応じて、新年会、花見会、バス旅行、クリスマス会や各種講演会などを企画して進めています。

また、機関紙として毎月「川難聴だより」を発行し、会員や関係部署に発送しています。内容は、会の主な行事や耳に関する情報、理事会や例会等の予定計画は日程表を作成、さ

まざまな内容でお知らせし、会員同志の相互理解に努めております。

今年度の日帰りバス旅行は、5 月 19 日に福祉バスを利用し、大勢参加され、三浦半島を一周してきました。



平成25年 三浦半島日帰りバス旅行

「手話勉強会」は、交通の便と手話の上達レベルで4つに分けて、毎月定期的で開催しています。また、難聴者が手話を気軽に学べるように「入門手話講習会」も実施しています。



(写真：手話勉強会)

「読話」は、手話が未熟な難聴者にとって、相手の口形を読み取りながらコミを図ることを目的に、毎月第2・4木曜日情報文化センター研修室に集まって学んでいます。また、川崎市の北部地域に住む難聴者や家族を対象に、新たな場所として、北部読話勉強会を毎月1回麻生区のパルあさおにて開催し、たいへん好評を得ています。

「手話ダンス」は、残聴能力を生かして、音楽とリズムを楽しむことにより会員同志の交流を図り、明るい生活を送れるようにするの

が目的です。毎月第1・3木曜日福祉施設ちどりにて定例会を開いて練習に励んでいます。

また、「情報文化センターまつり」や「なかはら福祉健康まつり」などでも毎年、手話ダンスを舞台上で披露しています。



(写真：読話勉強会)



(写真：手話ダンス同好会)

一方、今年度より要約筆記「奉仕員」から「者」へ移行の新PC要約筆記者養成講座と現任移行研修会が、情報文化センターにて開催されており、今後は要約筆記者の専門性がより一層向上してきます。

こういったことから、「要約筆記指導者養成講座の予算増額」や「市内各福祉施設へ情報保障機材の設置」「人工内耳の体外機器及び電池助成」「公立小・中学校での難聴者理解を深める福祉体験学習」などを、川崎市に要望しています。今後も聴覚障害者の福祉向上に努めて参ります。

(川崎市中途失聴・難聴者協会 伊藤 實)

川崎市内の障害者作業所紹介

地域活動支援センター「糸ぐるま」

平成 14 年 4 月川崎市の認可を受けて、川崎区大島 5 丁目に障がい者地域作業所「もくれん工房大島」として開所。その後、平成 19 年 12 月に NPO 法人「紬の会」（つむぎのかい）を設立して大島 1 丁目に移転。平成 20 年 4 月から地域活動支援センター「もくれん工房大島」の運営を開始しました。平成 23 年 4 月から地域活動支援センター「糸ぐるま」に名称を変更して現在に至ります。

私たちの「糸ぐるま」は川崎市等の補助を受け、身体・知的・精神など様々な障がいを抱えた人たちが通所し、自主製品の制作・販売と作業活動を通じて、生活の向上と自立・地域社会への参加・障がい者同士の仲間作りなど、自らの障がいの克服とリハビリを目標にして利用者と職員・ボランティアが協力して運営しています。

主な活動内容は、まずは自主製品の製作・販売、指輪・ストラップ・ネックレス・メガネチェーン・帽子どめなどのビーズ製品をそれぞれの障がいに応じて制作しています。製品は地域のイベントや受注、委託販売などで購入していただけます。

またご支援いただいている企業からの軽作業を行っています。ほかにも社会参加をめざし地域との交流を図る活動もしています。

現在、利用者 24 名・職員 4 名という大所帯になりました。多くの障がい者が集える場である「糸ぐるま」は、みんなの協力でもっと楽しく過ごせています。ぜひ一度お立ち寄りください。

(施設長 安藤 ^{さとし} 敏)

◎共に歩む

作業所に関する知識もなく、利用者から理事長になって 5 年目になります。

障がいを持つ当事者として、多くの仲間が『元気に、楽しく、仲良く』を目標にして、魅力と意欲の持てる『活動の場』づくりをめざして取り組んできました。今では、利用者も 24 名となり、職員任せの『お客さん』ではなく、障がい者同士の助け合いと思いやりの心を持ち、自らが積極的に作業所活動の向上に参加する意識を持ち行動する事を重視して取り組んできました。

そして、利用者が自主的に企画し運営するレクリエーションやスポーツ活動の機会も増え、自立と社会参加への大きな活力となっています。

利用者の支えと職員の協力を受け、一層の障がい者仲間への励ましと支援活動を広げていきたいと思っています。

(理事長 西森 猛)



(写真：平成 25 年度 総会にて)

地域活動支援センター「糸ぐるま」

〒210-0834 川崎市川崎区大島 1-3-6

Mレジデンス 1F

TEL : 044-222-0669

平成 25 年度 川崎市身体障害者福祉大会

平成 25 年度 川崎市身体障害者福祉大会が、7 月 21 日 (日) 13 時から川崎市国際交流センター・ホールにて開催されました。

今回の福祉大会は、公益財団法人川崎市身体障害者協会の法人設立 30 周年を記念して、身体障害者の諸問題を提起して関係機関に働きかけるとともに、身体障害者の自立と福祉の向上を図り、社会参加の推進に寄与することを目的とし 2 部構成で実施されました。



(写真：シンポジウムの様子)

第 1 部、記念式典では、障害者福祉に多大なご協力を戴いた団体様への表彰が行われ、大会会長より感謝状が贈呈されました。

また、各構成団体の代表者から、川崎市に対する要望事項の提起が行われ、質疑応答の

のち、議決されました。

第 2 部では、「バリアとどう向き合うか」をテーマに、シンポジウムが行われました。

○コーディネーター：

川崎市視覚障害者ボランティア連絡会
相談役 斉藤 準(しとし) 氏

○コメンテーター：

なかはらボランティア連絡会
代表 伊藤義昭 氏

○シンポジスト(各構成団体から選任)：

視 覚：酒井栄蔵氏 聴 覚：尼寺正博氏
肢 体：石山春平氏 脳 性：菅野房子氏
脊 損：澤藤充教氏 わスミ：大塚正陽氏
難 聴：伊藤 實氏

各シンポジストから、沢山の貴重な意見が発表され、障害や障害者に対する理解を深めることができました。 (事務局)

※障害者社会参加推進センターでは、本紙へ掲載する作業所の紹介記事を募集いたします。先ずは、お問合せ下さい。

川崎市障害者社会参加推進センター

TEL 044-246-6941 FAX 044-246-6943

担当：澤邊(さわべ)

編 集 後 記

「この度、川崎市障害者社会参加推進センター通信の第 1 号が発行されました！」と聞くと「おかしいな・・・」と思われることでしょう。それは当然のことで、その意味するところは「私が編集委員長となって第 1 号の発行」ということなのです。

入院中で欠席した 4 月の川身協理事会において広報・啓発委員会の担当となり、また欠席してしまった第 1 回の広報・啓発委員会で編集委員長にもなってしまっていた。そんな流れだったので、正直なところ「思ってもいなかった役が回ってきてしまった・・・」という気持ちである。

編集会議では原稿に修正等を行わなけれ

ばならないが、これが初めてのことなのでなかなか難しく気を遣う作業となった。誤字脱字の修正はともかくとして、文章を直すのには「原文の意味を変えないように」という細心の配慮をしたつもりである。なにはともあれ委員の皆さんと事務局さんの協力により、無事に“第 1 号”の発行ができそうである。

障害者作業所の紹介やその他にも原稿が必要な感じを受けた。また、皆さんがどのような記事を求めているかも知りたいとも思った。やるからにはより良い通信になるよう一生懸命やっていきたい。皆さん！是非、ご協力をお願いします。 (委員長 澤藤 充教)

(頒価 100 円)